

全自者協ニュース

JAAS (Japanese Association of Autism Support)

- ・全自者協ニュース／第61号／2023年（令和5年）6月
- ・発行所＝全日本自閉症支援者協会・事務局 ☎ 072-662-8133
- ・発行人＝松上利男・編集人＝五十嵐猛・URL <http://zenjisyakyo.com>

あいさつ

厚生労働省発達障害対策専門官 西尾 大輔

2023年4月より厚生労働省の発達障害対策専門官に着任いたしました西尾大輔と申します。職歴としては、知的障害者入所更生施設、知的障害特別支援学校、札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるを経て、現在に至ります。前発達障害対策専門官であった加藤永歳氏の足跡を大切に、そして現発達障害施策調整官である山根和史氏と協力して、さらにその歩みを進めていきたいと思っています。これから何卒よろしく願いいたします。

日本で自閉症支援が始まって半世紀以上が経過しましたが、1つの大きな節目となったのは2005年の発達障害者支援法でした。この法律は理念法ではありましたが、2010年以降さまざまな法律制度に発達障害が位置づけられてきました。このことから障害福祉サービス等で、発達障害支援については一般的な話題となってきています。

しかし、まだまだ積み残している問題は多く残っています。その1つが強度行動障害の問題です。障害福祉サービスでは受入体制が整わずサービスが十分に提供されていないことや、そのことで同居する家族が重い負担となっている実情があります。またコミュニケーションの苦手さがある強度行動障害を有する方は、虐待の被害や身体拘束等を受けることが多いことも明らかになっており、虐待防止や権利擁護の観点からも適切な支援の提供できる体制整備が求められています。

厚生労働省では2022年に「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会」を8回にわたり開催しました。一般社団法人全日本自閉症支援者協会（以下、全自者協）の会長である松上利男様をはじめ、多分野の有識者を構成員としてさまざまな議論が交わされました。報告書については厚生労働省のホームページにありますので、ぜひご一読ください。

この報告書では、強度行動障害を有する方の支援を進めるための重要なことの1つとして、「支援人材のさらなる専門性向上」がまとめられています。強度行動障害を有する方への支援においては、根拠のある「標準的な支援」を行うことを基本として、予防的な観点も含めて人材育成を進めていくことが重要です。また特定の職員のみ依存せず、事業所の職員全体の支援スキルを上げるとともにチーム支援の重要性も指摘されています。

人材育成については強度行動障害支援者養成研修でも進められているところではありますが、さらに「標準的な支援」を踏まえて現場において適切に支援を実施し、組織の中で指導・助言ができる人材として「中核的人材（仮称）」の育成、配置の必要性が報告がされました。また、中核的人材等に指導・助言が可能な外部からの「広域的支援人材」が地域の支援を支えていく構造について議論されました。そして強度行動障害を有する方の行動が悪化したときには「集中的支援」を実施することで、受け入れ事業所を地域全体で支えていくという支援体制整備についてもまとめられています。

自閉症支援は舞台を地域に移していくことで、連携した支援が必要になってきています。障害福祉はもちろん医療、教育、高齢者福祉など他領域との協働をすることで多様性のあるいままでにはない支援を探求していくことが必要です。全自者協様にはさまざまな先駆的な取り組みをしている事業所がありますので、ぜひ今後もお力をお借りしながら、新しい多様性のある支援を発信していくことで、自閉症のある方とその家族、そして関わる支援者、地域の方がみんな幸せになるような社会を目指していきたいと思っています。今後も引き続きよろしく願いいたします。

*強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会
報告書 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28187.html

「第35回全日本自閉症支援者協会研究大会 (大分WEB大会)」の報告

令和5年1月28日に「大分WEB大会」を開催いたしました。今大会は、担当となる中国・四国・九州ブロック加盟施設で検討をすすめた結果、新型コロナウイルス感染症の影響が拭い去れない中で、各法人内の施設等で人材不足やクラスター対応に追われる職員の負担軽減と本研究大会のバトンをつないでいく折衷案として社会福祉法人萌葱の郷が大分県から委託を受けている大分県発達障害者支援センターECCOALが中心となって萌葱の郷YouTubeを通して開催することにしました。

大会のテーマは「全自者協の目指す人材育成」として、最初に松上会長から全自者協における研修や研究事業の遍歴と虐待問題についてのご声明をいただきました。その後、前半は「発達障害支援施策」について厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害施策調整官山根和史様より行政説明をしていただき、自閉症児者の地域生活支援に向けた制度を皆様と共有することができま

した。続いて前会長である五十嵐康郎氏より「自閉症支援と人材育成について」と題して、半世紀にわたる実践を講演していただき、実践を通じたスーパーバイズや関係諸機関とのネットワークを展開させていくことの必要性を再認識することができました。昼休憩をはさんだ後半からは「強度行動障害に関する中核的な人材の養成に関する研究」について志賀利一政策委員長からご報告いただき、事業所にOJTを定着させることが重要であることを確認するとともに、「スーパーバイザー養成研修からの報告」を石井啓副会長にご報告いただき、事業所にスーパービジョン体制が必要であることも確認することができました。最後には松上利男会長による進行で「人材育成」について登壇者の方々にシンポジウム形式で意見交換を行っていただき、「強度行動障害」にある自閉症児者の生活を地域の中で豊かにしていく道標を全自者協が担っていることを皆様と共有することができました。

登壇者の皆様には、コロナ禍によ

て打合せ等が行いにくい状況であったにもかかわらず、準備段階からご理解ご協力をいただき、本当にありがとうございました。今回は思い切って「YouTube」によるLIVE形式にしたことで、フリー参加で視聴していただいたところ、当日は最大120名ほどのアクセス数があり、LIVE収録後は4日間で合計390名から1064回の視聴があったことを確認することができました。2月1日からは編集した動画に切り替えて流しています。現在でも毎日5〜10名の方に視聴いただけており、全自者協研究大会の周知にもつながったのではないかと思います。

また、WEBによる事務手続き等の負担軽減から分科会を断念いたしました。また、シンポジウムを集合した形で開催できたことは次回につなげられたのではないかと思っています。登壇者の皆さまには、新型コロナウイルス感染症が拭い去れない中でのご来県、誠にありがとうございます。他にも、ご協力いただいた皆さまにもこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

部会報告

発達障害者支援センター

4月28日(金)に発達障害者支援センター部会を行いました。全自者協加盟法人で発達障害者支援センターを受託している8センターの参加がございました。また、講師として厚生労働省より発達障害支援施策調整官 山根和史氏、発達障害支援専門官 西尾大輔氏にもご参加いただきました。

会議はZoomミーティングを使用して行いました。まずはじめに、山根調整官より「発達障害施策 国の動向」と題してご講義をいただきました。特に「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告」のご説明をいただき、その中で、強度行動障害を有する者の地域支援体制における発達障害者支援センターの求められる役割として、「直接支援の機関に対する助言等の後方支援」とのお話があり、参加センターと意見交換を行いました。

後半は、参加センターから現状と課題の報告を頂きました。各センター日々の相談業務の忙しさがある中、特徴的な取り組みをされているセンターも多く、大変参考になる内容でした。ただ、時間が少なく意見交換を行う時間が取れませんでした。できればもう一度同様の機会を持つことを確認し終了しました。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修 『今年度研修概要』

発達障害支援
スーパーバイザー養成研修
特定事務局 北川 裕

今年度のSV研修は、研修の内容やプログラムに大きく変わる部分はなく、受講者のニーズに合わせるための変更が主になっています。ここでは、編成の狙いと、SV研修として考えているスーパーバイザーの存在価値、養成や育成の考え方について、改めてお伝えします。

【編成】

支援者向けと育成者向けの研修を明確に分けた編成で実施します。支援者向けのベーシックコースには、発達障害支援の基礎となる知識を幅広く提供することを指し、座学のみを枠を新設しました。

指導者・育成者向けのアドバンスコースは、支援者としてはすでに成果を上げられるものの、「メンバーにどう関われば、目指す支援を提供できるようなチーム作りに繋がるのか」といったことに悩むリーダー層のニーズに応えられるよう、ベーシックコースを修了せずに受講できるよ

うにし、修了後に研修を継続できるよう、協会のブロック活動に参加できるようにしました。

これまでの階層状の編成を止めたのは、コースをステップアップして修了すればスーパーバイザーになれるかのようなイメージを払拭したいからでもあります。

【スーパーバイザーの必要性】

すでに多くの方が強度行動障害支援者養成研修を受講されていると思います。彼の研修が障害特性に合った支援の必要性を広く知らしめていることは、非常に価値あることだと感じています。

ただ、残念なのは、研修内容を支援の現場で活かせている受講者や施設が思いのほか少ないということだと思います。

実際にいろいろな施設で聞いてみると、学んだ通りに進めても、グループ討議で意見集約ができなかったり、仮説を立てて統一した支援をしてみても行動障害は相変わらずで、「うちには合わない」と従来通りのやり方に戻ってしまうこともあるようです。研修全般に当てはまることとして、「習ったことをそれぞれの支援状況や対象者に合わせてアジャストする必要がある」という認識が共有されていない面もあるのだと思いますが、

彼の研修のいわゆる「中核的な支援者」がその役割を担うのも難しいようです。

支援計画のための会議や事例検討の時間も取りづらい中、悩みもあれば急に休みもする職員と、支援の準備や片付けや記録や行事や他の業務も含めてチームのマネジメントをし、その上、指導や育成もする。中核的な支援者に求められるものは質量ともに膨大です。その大変さを分かってくれて、助け支え導いてくれる指導者の存在は必須だと思います。

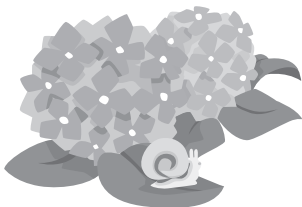
もちろん、SV研修は、強度行動障害支援者養成研修の活用やフォローアップに限定されるものではありませんが、養成を目指しているスーパーバイザーとは、そうした支援チームの中核的な支援者であり、中核的な支援者を支え育て得る指導者、育成者です。

【養成・育成について】

SV研修では、支援・育成両コースとも、受講後の自己研鑽、実践の積み重ねを前提にしており、基礎的な考え方や方法を示すに留めてきました。さらに広く研修内容を加えていきたいとは思いますが、修得や理解の深まりには、その人なりの悩みや躓きを乗り越える過程、認識が変容するような経験が不可欠で、そこ

にこそスーパーバイザーの存在価値があると思います。ここでは、教えるー教わる関係ではなく、やり取りの中で、バイジー自らハッと気づくような体験が重要だと考えています。そうした育成ができる体制を構築・維持するには、長い時間と労力を要し、一つの施設や法人の人材だけではどうにもまかなえず、いろいろなところから人が集まって苦労を分かち合い、癒しを得ながら、負担も分け合いながら、継続して研鑽をするような場が必要だと考えています。

幸い、本協会には、支え導いてくれる優れた実践家や指導者がいて、地域で集まるブロック活動があります。SV研修を入り口にその一員となり、助け合い支え合い学び合う中で、スーパーバイザーになっていただければと考えています。



**協会の在り方の検討が
始まりました！
協会理念の再構築！**

現在、「びるどUPプロジェクト」という企画が協会内で進行しています。この企画がどのようなものか、プロジェクトの進行役である石井副会長に、お話しを伺いました。

・この企画は、どのようなものでしょうか

この企画の正式名称は、「J A A SびるどUPプロジェクト」です。J A A Sというのは、あまり馴染みがないかもしれませんが、全自者協の英語の略称です。つまり、全自者協をビルドアップ（構築）するという取り組みになります。

・具体的には何をビルドアップするのでしょうか

このプロジェクトの出発点は、常任理事会の中で、協会の在り方を検討しようとなったことです。ただ在り方というと非常に漠然としているため、その根本的な会の方向性や目指す理念というものを再構築することになりました。現在も理念らしきものが協会の会則にもありますが、数年前に協会の名称が全国自閉症施設協議会から全日本自閉症支援者協

会に変わった時に、実は在り方も見直しされてはいるのです。しかし、きちんと言葉として明文化されていなかったというところで、改めてそういう作業が必要ということになり、プロジェクトとして、ほぼ新しく作るくらいの位置づけで理念を策定しています。

・この取り組みは、何がきっかけとなったのでしょうか

発端になったのが、事務局からホームページのデザインをリニューアルしたいという希望が出たことです。このデザインもコンセプトがはっきりしていないと刷新してもあまり意味がないというところから、そもそも全自者協の在り方とは、ということにも繋がりが、この話が進み始めました。

・なぜ、この取り組みが必要と考えたのでしょうか

新しく協会に加わってくる施設の方や、外部の方が、全自者協がどのようなところなのか、どのような取り組みをしているのか、分り難いと思っています。協会に加入して比較的長い方は、入所施設の集まりから始まり、自閉症の支援者の職能集団にしていくというような共通認識など、歴史的な経緯を踏まえていると思いますが、そこを全然知らない

方、見えない方、見てこなかった方にとっては、今のホームページを見たり、全自者協の研究大会に参加しても、支援者、職員の集まりというのは解るけど、何のために集まっているのか、少し分り難いのではということがあります。

・協会を分り易くしようということはどうでしょうか

分り易くということもあります。が、何を指しているのか、そこを明確にしておくことで、現在、会員になっていく方達や、それこそ現場で強度行動障害とか自閉症、発達障害に関わっている大変な思いをしている方が、力づけられる、勇気づけられる、誇りを持てるような、そういう仕事を支える協会になれたらいいということもあり、このプロジェクトを考えたわけです。外へのアピールもさることながら、協会内の方に対するエールみたいなもの、現場で頑張っている皆さんを鼓舞できるような、何か言葉を作りたいと、出発点でそのように話し合い、スタートしました。

・プロジェクトメンバーはどのような構成でしょうか

この企画の位置づけとしては、常任理事会内のプロジェクトですが、メンバーには常任理事だけでなく、理

事の方にも入って頂いています。本来ならば、会員の沢山の人を巻き込み、様々な意見を聞きながら理念を策定出来たらいいのですが、先ずは現実的なところとして、小規模で検討する材料を提供するためのたたき台を作ろうとなり、その中でもせめて各地域のブロックから選出されている理事の方に参加してもらえようというプロジェクトチームにすることで、各地域をある程度カバーできるのではないかとお願いしたわけです。

- プロジェクトメンバー**
- 北海道・東北ブロック 「はるにれの里」 佐藤理事
 - 関東ブロック 「嬉泉」 石井副会長
「菜の花会」 与那嶺理事
 - 神奈川ブロック 「横浜やまびこの里」 小林副会長
 - 東海ブロック 「檜の里」 近藤常任理事
 - 北陸ブロック 「めひの野園」 東理事
 - 近畿ブロック 「北摂杉の子会」 奥平氏
「あかりの家」 和田理事
 - 中国、九州、四国ブロック 「ひらきの里」 松本理事

・どのような形式で進めているのでしょうか

形式としては、このメンバーで、2022年の秋頃から、月に1〜2回のオンライン会議で今のところ進めてきています。

その内容は、先述の通り、理念の再構築ですが、理念はいくつかの要素から成っていて、いろんな考え方はありますし、これが一つの正解というわけではないのですが、自分の法人（嬉泉）や日本自閉症協会の方でも同じようなことを手掛けたことがあり、その経験から理念は大きく5つの要素からなっていることが多く、その5つの要素を順番に検討して作り出している形です。

・理念の5つの要素とは

5つの要素は、M V V S S。ミッション、ビジョン、バリュー、スピリット、スローガンというものから形成され、ミッションは、日々行うべき使命ということで、協会が日常的にどういうことをやっているか、やろうとしているか。ビジョンは、ミッションを遂行して行きつく先、未来像ということ、将来的に協会がどういう風になつてほしいか、どういう姿になつてほしいか、どういう世界を創りたいか、どうしているか。バリューは、ミッションを遂行してビ

ジョンを実現するための固有の価値というか、協会のもっている強み、大事にしていること。スピリットは、実際にそのミッションとかビジョンを遂行して実現していくために、それぞれの構成員である会員施設の施設長や職員など、そういう方達が個人レベルの活動として、協会のミッションを遂行するため、ビジョンの実現するためにどういうことを心がけるのか、どういう精神でそれに臨むのかを表すもの。スローガンは、これまでのミッションやビジョン、バリュー、スピリットというのを、もう少し端的に、キャッチフレーズ化して、合言葉のように唱えることで、ミッションの遂行やビジョンの実現とかに近づける掛け声のようなもの、言葉。最近でいうと、企業のサントリーでは「水と生きる」とかよく宣伝していますが、あれなんかはスローガンですね。

・今後、どのように展開していくのでしょうか

7回目の会議までにミッションのたたき台が出来て、今はビジョンを考えていますが、この他の要素も2023年中には出来る予定で進めています。この理念は、5つの要素がセットになつているので、5つのたたき台が出来た段階で、発表、報

告できる見通しです。ただ、あくまでも先ほど申し上げたように、常任理事会としてのたたき台なので、これをどういう形で会員の皆さんと議論するのかというのは、これから考えることなので、このたたき台が出来た段階で皆さんにお披露目するのか、それとも違った形で検討の場を設けた上で、また少し言葉を足すなり、変えるなりして最終的なものを、例えば、総会の場で発表するのか、そこは未定です。

そのため、現段階で何か会員の皆さんにご意見を頂くとかということとしてはないので、最初にお話ししたように、何かこう会員の皆さんに力づけられるようなものを作りたいという気持ちがあるので、そういう試みというか、動きを役員層がしているということは、この機会に知って頂けるといいなと思っています。

（取材担当…全自者協広報委員

（社福）嬉泉 西川 輝）



おはようございます



集まって〜！



全自者協の逸品



社会福祉法人はるにれの里には、北海道きのこ品評会でも数々の受賞歴を持つふれあいきのこ村生産のしいたけや、地域の方々から絶大な支持をいただいているベーカリーショップこむぎっこのパン、地域活動支援センターアンナプルナの刺子製品やポチ袋、サポートセンターあらいぶの保存料・着色料・香料無添加の石鯨しろろんなどなど、自慢したくなる数々の逸品があります。それらの有名どころを押しつけて今回紹介させていただくのは利用者さんのアート作品による LINE スタンプです。札幌市自閉症者自立支援センターゆいと自閉症者地域生活支援センターなないろからお知らせいたします。

札幌市自閉症者自立支援センターゆい

お仕事頑張って



明日も頑張ろう



なるほど！

遊びに行かない？



自閉症者地域生活支援センターなないろ

お疲れさまです



ありがとうございました



おやすみなさい

LINEスタンプ
ゆい余暇委員会より

ゆいの利用者様に描いて頂いたイラストをLINEスタンプにして販売する取り組みを始めました。売り上げは作業工賃として還元されます。ぜひ一度ご覧になって下さい。

今更かってます
わはははは
ご苦労さん
了解です

現在発売中

はるゆいステッカーで検索！

↑こちらのQRコードから購入出来ます！

なないろ
LINEスタンプ
販売のお知らせ

#ほっこり
#ゆるい
#なごむ
#加藤潔

LINEスタンプショップから
なないろクリエイター
で検索！

QRコードは
こちら！

それぞれのチラシにあるQRコードからお求めいただけます。職場内や家族で使うと、雰囲気よくなること間違いなし。売り上げは作者である利用者さんに還元されますから、あなたの購入が利用者さんを真のアーティストにするのです！もう買わないわけにはいきません。ぜひぜひ、よろしくお願いいたします。

なお、なないろでは、所長の加藤潔という人間のスタンプまで作ってしまいました。図々しいにもほどがありますが、魔除けスタンプとしてご活用ください。



世界自閉症啓発デー2023 イベント報告

世界自閉症啓発デー日本実行委員会は、例年4月2日の「世界自閉症啓発デー」に合わせて、自閉症をはじめとした発達障害について、多くの方に関心を深めていただくためのイベントを行っております。

新型コロナウイルス感染症の流行とともに、今まで行っていた「シンポジウム」の開催は引き続きの見送りとなり、それに代わる啓発活動として、公式ホームページ上に啓発動画の掲載などを行って参りました。今年においても、感染症予防の観点から、参加型のイベントは開催せず、自宅でご覧いただける動画コンテンツの配信と、4月2日の東京タワーライトアップ点灯式を開催致しました。

動画コンテンツは、①世界自閉症啓発デー日本実行委員会の公式ホームページ「We Belong わたしたちのうた」(世界自閉症啓発デー版)と、②発達障害のある当事者と支援者からのメッセージの2点を公式ホームページに掲載しました。

ここで、動画コンテンツについてご紹介いたします。

①世界自閉症啓発デー日本実行委員会の公式ホームページ「We Belong わたしたちのうた」(世界自閉症啓発デー版)

ことしの注目ポイントとなりますが、セサミストリートの皆さんの協力のもと、世界自閉症啓発デー日本実行委員会の公式ホームページが誕生しました。そのタイトルは、「We Belong わたしたちのうた」です。歌詞の一部をご紹介しますと「ずっと 友達だよ いつまでも 一緒だよ そう ウィ・ビロング 歌おう 私たちのうたを」とありますが、この歌には、セサミストリートさんが願う全ての子どもの個性や友情を尊重し、多様性豊かな社会でともに生きていこうという心温かいメッセージが込められているように思います。そして、その心のこもった歌詞と歌声を披露していたのは、NHK Eテレに出演中の「SDGs子どもユニット・ミドリーズ」の皆さんでした。この動画では、素敵な歌詞とメロディーとともに可愛らしい振り付けも披露されています。

②発達障害のある当事者と支援者からのメッセージ

全国にお住まいの自閉症・発達障害のある方々からのメッセージを集めたコンテンツです。自分自身の苦手なことや得意なこと、好きなことの紹介をはじめ、日頃の生活を通じて感じていること、これからの目標、取り組みたいことなど、思いの詰まった沢山のメッセージが寄せられています。

今年は、前段でご紹介致しました「We Belong わたしたちのうた」の中でも、映像として紹介されています。メロディーと合わせて紹介される映像には、感動を覚えました。

つぎに、「4月2日」の東京タワーでの点灯式について、ご紹介いたします。点灯式の開会に合わせて、会場では、公式ホームページ「We Belong わたしたちのうた」が初めて披露されました。「SDGs こどもユニット・ミドリーズ」と、「セサミストリート(ジュリア・エルモ・クッキー・モンスター)」の皆さんが駆けつけ、ステージ上で初めて披露されました。とても優しい気持ちになるとともに、会場も心暖まる雰囲気となりました。

その余韻が残る中、ライトアップ

の点灯式は、「発達障害の支援を考える議員連盟」の野田聖子会長、山本博司事務局長の両議員と、市川実行委員長、セサミの皆さんとともに、「3・2・1」のカウントダウンへと進み、東京タワーは、ブルーに彩られました。

東京タワーをはじめとした全国各地で行われたブルーライトアップとともに、今年は、公式ホームページが流れました。年を重ねるごとに、この自閉症啓発デーの活動は、全国に広まっていると感じております。その広がりと同じように、この公式ホームページも、自然と社会の中で広がり、この曲に込められた思いが1人1人に届くことを心から願っております。

(社福) けやきの郷 水野 努



ASJ総合保障

「自閉スペクトラム症のための総合保障」のご案内

ASJ総合保障「自閉スペクトラム症のための総合保障」は「病気やケガで入院した場合」「ケガでの通院」「個人賠償補償」「弁護士費用等補償」をセットにした総合保障となっております。
自閉スペクトラム症の人たちやご家族が、日ごろの心配や不安を少しでも軽くするための保険です。

【保障内容】 詳細はお問い合わせください。パンフレット等をお送りさせていただきます。

ASJ保険

病気やケガ・検査での入院に備えて(入院を開始した2日目から保障します)

- 入院保障金** 1会計年度30日まで
 - ・付添介護費用 1日 8,000円
 - ・差額ベッド費用 1日 5,000円
 - ・入院臨時費用 1入院 5,000円
 - ・入院諸費用 1日 1,000円
- 死亡弔慰金**(受取人は法定相続人となります) 5万円



AIG損保普通傷害保険

ケガをした時、他人への損害賠償、弁護士等を利用した時に備えて

- 本人の傷害(ケガ)の補償**(ケガでの入院、通院を初日から補償します)
 - ・入院(180日限度) 1日 3,000円
 - ・手術(1事故あたり1回まで) 3万円もしくは1.5万円
 - ・通院(90日限度) 1日 1,500円
 - ・死亡保険金 226万円
 - ・後遺障害保険金 226万円～9.04万円(障害の程度に応じて)
- 他人への損害賠償(対人・対物)** 1事故あたり 最高3億円まで
- 弁護士費用等補償**
 - ・法律相談費用 1事故あたり 5万円まで(1回1万円まで)
 - ・損害賠償請求費用 1事故あたり 200万円まで
 - ・弁護士接見費用(無罪・不起訴のみ) 1事故あたり 1万円まで

加入プラン(会員種別)	年間掛金計	内訳
◆加入プラン A 正会員 (日本自閉症協会正会員(加盟団体)の構成個人会員)	15,900円	ASJ保険料 6,100円 AIG損保保険料 9,300円 年会費 500円
◆加入プラン B 自助会員 (上記A以外の方は申し込みにて自助会員となります)	17,900円	ASJ保険料 6,100円 AIG損保保険料 9,300円 年会費 2,500円



自転車事故で法律上の損害賠償責任を負った場合も対象になります!



お問い合わせ・お申込み フリーダイヤル 0120-880-819



一般社団法人 日本自閉症協会 ASJ保険事務局

〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 ニッコンビル6F

TEL:03-5565-2020 FAX:03-5565-2021 E-Mail: asj-hoken@autism.or.jp

営業日: 月～金(土・日・祝日除く) 10:00～16:00

* 入院保険金のご請求や届出住所・金融機関等をご変更の場合は、ASJ保険事務局までご連絡下さい。